

2013年7月12日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 松下 和夫

ベトナム国ダナン市環境インフラ整備事業
(協力準備調査(有償 PPP))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2013年6月28日(金) 14:00～17:33
- ・場所：JICA 本部 (会議室：2階 212会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、清水谷委員、谷本委員、二宮委員、松下委員
- ・議題：ベトナム国ダナン市環境インフラ整備事業(協力準備調査(有償 PPP))
に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：ベトナム国ダナン市環境インフラ整備事業(協力準備調査(有償 PPP))助言委員会
事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第37回委員会)

- ・日時：2013年7月5日(金) 14:30～16:38
- ・場所：JICA 本部(会議室：2階 229会議室)

上記の会合に加え、メール審議により助言を確定した。

助言

全般的事項

1. 本調査では、廃棄物減量化・再資源化促進のためのソフト対策を具体的に検討し、その内容及び対策実施主体を DFR に記載すること。
2. JICA は、既存の廃棄物処分場からの浸出水対策の改善提案を、適時に、ダナン市に対して行うこと。
3. JICA は、BOT(build-operate and transfer scheme)で実施予定の本中間処理施設事業において、跡地の安全管理など、将来に想定される環境影響とその対策をダナン市に申し入れること。
4. SEA の法制度概要調査結果について記載すること。

代替案検討

5. 総合評価においては、技術面、経済面、環境社会面の観点から評価を行い、その根拠も DFR に記載すること。
6. 代替案につき、廃棄物量全体でおよそ何割が減量される見込みなのかを DFR に記載すること。

スコーピングマトリックス

7. 中間処理施設から排出が予想される大気汚染物質の種類と量、並びに煙突の高さ、拡散の範囲、年間を通しての風向等の諸条件と関連の公害対策につき、DFR に記載すること。
8. 社会環境の生計の項目については、地域での雇用者が限定的であるため、それを踏まえた現実的な評価とすること。

環境配慮

9. 既存の廃棄物処分場からの影響により、水（地表水、地下水を含む）及び土壌とも現状で既に汚染状態にあるので、調査の必要性を再検討し、必要であれば、実測等を行い、その結果を DFR に記述すること。
10. 悪臭については、既存の廃棄物処分場の悪臭に関する苦情データを収集し、さらに近隣住民へのヒアリングを実施して、その結果を DFR に記載すること。
11. 焼却灰を含む、廃棄物処分場において処分される物質により、水質、土壌、大気等の環境汚染が生じた場合、当局による調査や SPC（本事業の施設整備及び維持管理運営を行う特別目的会社）に対する改善命令等が適切になされる体制が整っていることを確認し、DFR に記述すること。
12. 廃材などに有害廃棄物が付着しないよう、現地の法律に沿って適切な建設工事の管理を行うこと。
13. 公害問題の発生により健康被害を生じる可能性があるため、労働者、近隣住民へのいわゆる健康影響の有無について DFR に記載すること。

ステークホルダー協議・情報公開

14. 今後予定されているステークホルダー協議では、関係機関・地元の自治体の職員のみならず、住民やメディアなど幅広い参加者を対象とすること。
15. ステークホルダー協議において、本中間処理施設の供用後の既存廃棄物処分場を含めた施設管理が非常に重要であり、その仕組みを作らなければ、深刻な環境汚染が生じるなど大きな社会コストが生じる可能性があることを、日本で起きた事例等も紹介しつつ、より幅広い利害関係者が理解するように説明がなされること。

調査 TOR

16. 環境社会配慮調査に関わるヒアリング調査において、影響を受ける利害関係者を把握した上で実施すること。

その他

17. コンポスト処理後の堆肥類の有効活用を検討すること。

以 上